

江戸時代の文化

幕藩体制の安定期に町人が台頭してきた京都・大阪の上方中心の**元禄文化**と幕藩体制の矛盾が進行して、江戸庶民を中心とした独特の文化が**化政文化**である。化政文化とは、特に栄えた時期の年号(文化・文政)からとった。

	げんろく 元禄文化	かせい 化政文化
時期	17世紀末～18世紀初め 五代将軍徳川綱吉 文治政治の頃	18世紀末～19世紀初め
特色	町人の文化(上方の豪商と武士) 現実的・合理的で明るく活気がある。 自由な人間精神の追求。 豪華・洗練の美。はなやか	権力者に対する皮肉やしやれ、こっけいが喜ばれる。批判的精神。 享乐的・退廃的で無気力。
地域	京都・大阪(上方中心)	江戸中心
文学	うきよぞうし 浮世草子 町人の生活をおもしろおかしく表現 いはらさいかく 井原西鶴 にほんえいたいくら せけんむなざんよう 「日本永代蔵」「世間胸算用」 こうしよくいちだいおとこ のちに好色物「好色一代男」など	せんりゅう 川柳 俳句の形式で社会を風刺 きょうか 狂歌 短歌の形式で社会を風刺 【小説】 じっぺんしゃいっく 土返舎一九 とうかいどうちゅうひざくりげ 「東海道中膝栗毛」こっけい本 たきざわばきん 滝沢馬琴 なんそうさとみほつげんでん 「南総里見八犬伝」長編小説
俳諧	まつおぼしろう 松尾芭蕉 「奥の細道」 つきひは百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。	こばやしいつき 小林一茶 「おらが春」 すずめの子 そのけ そのけ お馬が通る よきぶそん 与謝蕪村 「蕪村七部集」 菜の花や 月は東に 日は西に
芸能	にんぎょうじょうり 人形浄瑠璃 三味線の伴奏にあわせて人形をあやつる かぶき 歌舞伎 かぶき踊りから発達。 ちかまつもん さえもん 近松門左衛門 そねざきしんちゅう 「曾根崎心中」 浄瑠璃の台本 たけもとぎだゆう 竹本義太夫(浄瑠璃の語り)のために書く こくせんやかっせん 「国姓爺合戦」 時代物	歌舞伎の全盛期 つるやなんぼく とうかいどうよつやかいだん 鶴屋南北「東海道四谷怪談」 かわたけもくあみ しろなみごにんおとこ 河竹黙阿弥「白浪五人男」



江戸時代の文化

絵画

【装飾画】大和絵風のはなやかな絵

おがたこうりん 尾形光琳
こうはくばいずびょうが 紅白梅図屏風



たわらやそうたつ 俵屋宗達
ふうじんらいじんず 風神雷神図屏風

【浮世絵】町人の生活を描いた絵

ひしかわもろのぶ 菱川師宣
みかえ びじんず 見返り美人図



【浮世絵】

浮世絵→にしきえ 錦絵
多色刷りの版画に

美人画

きたがわうたまる 喜多川歌麿
ふじょにんそうじっぴん 婦女人相十品



風景画

かつしかほくさい 葛飾北斎
ふがくさんじゅうろっけい 富嶽三十六景



うたがわ 歌川 (安藤) ひろしげ 広重
とうかいどうごじゅうさんつぎ 東海道五十三次



江戸時代の文化

		<p>役者絵 とうしゅうさいしやらく 東洲斎写楽</p> 
<p>学問</p>	<p>【歴史学】 とくがわみつくに 徳川光圀「大日本史」</p> <p>あらいはくせき せいようきぶん 新井白石「西洋紀聞」</p> <p>【数学】 せきたかかず 関孝和 和算の研究</p> <p>【陽明学】 なかえとうじゅ 中江藤樹 日本陽明学の祖</p>	<p>【国学】 こじき にほんしよき まんようしゅう 「古事記」「日本書紀」「万葉集」などの日本の 古典を研究</p> <p>もとおりのりなが こじきでん 本居宣長「点墨記伝」</p> <p>【蘭学(洋学)】 ヨーロッパの文化や知識を学ぶ</p> <p>すぎたげんばく まえのりょうたく かいたいしんしよ 杉田玄白・前野良沢「解体新書」 ターヘル・アナトミアの翻訳</p> <p>らんがくことはじめ 杉田玄白「蘭学事始」</p> <p>ひらがげんない エレキテル (はつでんき) 平賀源内 エレキテル (発電器)</p> <p>【医学】 シーボルト(ドイツ人医師) なるたきじゅく 鳴滝塾 (長崎)</p> <p>【地理学】 いのうただたか だいにほんえんかいよ ちぜんず 伊能忠敬「大日本沿海輿地全図」 正確な日本地図の作成</p>